

■明日から冬休み

12月22日(木)から1月12日(木)まで冬休みとなります。この冬休み中に徹底的に1・2学期の復習をして苦手克服に努めましょう。なお、後の記事にもありますが、3年生で大学等の一般受験を控えている諸君は、追い込み・まとめの時期です。残された時間を大切にしてください。では、年明けの1月13日(金)に元気に登校してくることを期待しています。



■大学入学共通テスト情報

大学通信発行の「UNIV PRESS NEWS」特別号(2022年12月12日号)から大学入学共通テストの最新情報をお伝えします(以下に引用)。3年生で受験する人は情報をよく確認して臨んでください。

2023年1月14日(土)・15日(日)に実施される大学入学共通テストの確定志願者数が発表された。総志願者数は51万2581人で、前年の共通テストより1万7786人(3.4%)減となった。

内訳は高校等卒業見込者(現役生)が43万6873人で1万2496人(2.8%)減。高校等卒業者(既卒者)は7万1642人で5143人(6.7%)減、その他(高卒認定等)が4066人で147人(3.5%)減だった。現役生、既卒者、その他のすべてで減少したのは前年同様だが、前年ほぼ横ばい(0.1%)だった現役生の減少幅が大きく広がる結果となっている。

来春卒業見込みの現役生は今春より約2万7千人(2.7%)減少し、前年の2.0%減からさらに減少幅が拡大。一方、高校等新規卒業見込者に対する共通テスト志願者の割合(現役志願率)は過去最高だった前年と同等(僅かに減少)で、45.1%の同率だった。全志願者に占める現役生の割合は85.2%(0.5%増)と増加している。また、女子の割合は45.0%で、前年より0.3%増加した。現役生は前年と同水準だったが、既卒者の女子比率が前年の27.8%から28.8%に上昇した影響が大きい。

確定志願者数と同時に発表された2022年度共通テスト利用大学は711校(国立82校、公立94校、私立535校)で、前年より3校増え過去最多となった。また専門職大学8校(公立2校、私立6校)も参加する。

今回の共通テストでは、コロナの影響で本試験・追試験ともに受験できなかった受験生への救済措置はないが、本試験の2週間後に実施される追試験では全都道府県に試験会場が設置される。今回もコロナ禍中での実施となるため、会場ではマスク着用の遵守が求められる。大学入試センター公表の「受験上の注意」をよく読んでおこう。

インフルエンザや風邪などで体調を崩しやすい時期でもある。生活リズムを維持し、万全の状態ですべての試験に臨もう。

■大学の一般入試に向けて

1月14日(土)～15日(日)の大学入学共通テスト以降、大学の一般入試が本格化していきます。それに向けて、学習面、生活面について、最低限のことですが、アドバイスしておきたいと思います。少しでも参考にして、悔いの残らない受験にしてください。なお、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の防止対策が取られるケースも多々あることとされます。受験校の入試情報をよく確認し、十分に対策を講じたうえで本番に臨みましょう。



〈学習面〉

- 教科・科目にもよるのですが、基本的には、これまで積み上げてきたものを信じて、例えば、英語であれば、単語集・熟語集、文法問題集、構文集などを繰り返し徹底して復習してみましょう。問題集や模試などでミスしたところにマークなどを施しているのであれば、そこを徹底して確認するというのも方法です。また、日本史や倫理・政経などは、直前まで追い込みが効く場合があります。最後まであきらめずにがんばりましょう！！
- 実践的な問題（赤本など）に取り組む場合は、自信を失わないように注意しましょう。もしできなかつた箇所があれば、必ず解答・解説にじっくりと目を通して、よく確認しておきましょう。分からないままにしておくのは、最もまずいことです。

〈生活面〉

- どうしても夜遅くまで学習する習慣が身についてしまっている人が多いと思いますが、人間の脳は、起床してから3時間以上たたないとしっかりと働かないとも言われますので、実際の入試に向けて、冬休みのうちから、試験開始の時間から逆算して早起きする習慣をつけておきましょう。
- 暴飲暴食は避け、規則正しい生活をするように心がけましょう。当然、風邪やインフルエンザ、感染性胃腸炎なども要注意ですが、今年度も新型コロナウイルスに感染しないよう、十分に対策をして試験会場に行くようにしましょう。日々の体調管理を怠らず、万全の健康状態で臨みましょう。

〈試験当日〉

- 最寄り駅周辺は多くの受験生で混み合うことが考えられますので、早めに会場に到着できるよう、若干、余裕を持って出発するように心がけましょう。例えば、東京都内の大学を受験する場合、同じ駅に複数の大学があるケースもありますし、大学の建物が乱立していて「会場がどこか分からない」と迷ってしまうこともあるかもしれません。多くの生徒がスマートフォンで位置情報を確認しながら会場に向かうものと思われそうですが、受験会場を間違わないよう注意してください。多くの受験生に圧倒されないことも大事です！！

■ 3年生の合格体験記

3年生の合格体験記です。今回は東北福祉大学に合格した丹野陽菜さんと栃木県の富士電機機器制御株式会社大田原事業所に内定した上平温斗君です。

【合格体験記】 丹野陽菜さん（3年4組）
東北福祉大学教育学部教育学科合格（総合型）

私は総合型選抜探求型で東北福祉大学に合格しました。東北福祉大学の教育学部では、全国でも数少ない自分の取
りたい資格が取得できること、1年次からボランティア活
動などを通して教育実践活動ができることに魅力を感じ、
目指すことに決めました。



総合型選抜探求型では、一次試験に学科試験、二次試験ではレポート提出に
加えプレゼンテーションやディスカッションがありました。学科試験では基礎
的な問題が出されるものの、もっと早くから基礎を定着させる学習をしていれ
ば良かったと思いました。面接は2回あったのですが、踏み込んで質問される
ことが多かったので内心焦（あせ）りました。しかし、自分の言葉でしっかり
答えられるように何度も練習を重ねていたので落ち着いて答えることができま
した。また、一次試験に合格してから二次試験までの準備期間が本当に短い上
に、レポートやプレゼンテーションは学科試験とはまた違った対策を練らない
といけなかったのが苦労しました。それでも、探究活動で自分の将来の夢に活
かせる知識を集めておいたことが今回のプレゼンに繋（つな）がったので高校
での探究活動がとても役に立ちました。

また、自分の考えに自信を持ち、相手に伝えようと発言することが大切だと
今回の受験を通して感じました。プレゼンやディスカッションで積極的に発言
したこと、面接でどんな質問をされても自信を持って答えることができたこと
が合格に繋がったのではないかと思います。

最後になりますが、志望理由書やレポートの添削をたくさんしていただいたり
、プレゼンの準備のサポートをしていただいたりとお手厚いサポートをしてく
ださった先生方、本当にありがとうございました。この思いを忘れずにこれか
ら進学後も将来の夢に向かって頑張っていきたいと思います。

【合格体験記】 上平温斗君（3年6組）
富士電機機器制御株式会社大田原事業所

私は小さい時から部品を加工するのが好きで、将来は部品
加工に携わる仕事に就きたいと思っていました。例えば、溶
接や加工で野球の練習用ネットの枠をつくったりもしていま
した。私が入社する会社は、主にハンダ付けでたくさんの部
品を製造したり、製品同士をくっつけたりします。そういつ
た仕事に興味を持っていましたし、この会社に入りたくないと強く思い、先生や友
人に面接練習の相手などをしてもらいました。本番では緊張しましたが、私の
伝えたいことを伝えることができ、面接の練習をしてくださった先生方や友人
たちには感謝の気持ちでいっぱいです。



来年の4月から1年間の技能研修が始まるので、それに向けて残りの学校生
活を有意義に過ごすとともに社会に出るための準備をしていきたいです。

■ 浅岡秀夫先生を悼んで



1年の間に続けて訃報に触れなければならなくなるとは思ってもみませんでした。本校の立ち上げから準備室の仕事に携われ、英語科教員を務めながら、教務主任、教頭、そして校長を務められた浅岡秀夫先生が12月1日に逝去されました。突然のことで本当に驚きました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今から20年前の3月、筆者が本校に赴任することになった際、浅岡先生は教務主任を務めておられました。2階の職員室で当時教頭を務められていた賀澤裕三先生と机を並べて仕事に当たっていました。浅岡先生に、「清水と申します。よろしく願いいたします」と挨拶した際、「ああ、どうも。よろしく」とお返事いただいたことを記憶しています。

浅岡先生は東京大学でギリシャ哲学を学ばれました。本校では、「東大卒」で名の知れた先生でした。筆者たちが若かったころ、飲み会の場などで、学生時代のことをユーモアを交えて話されていたことが懐かしく思い出されます。飲み会のときなどに限りませんが、時折、照れ隠しでお見せになるにこやかな表情が印象に残っています。

校長時代には、筆者が委員長を務めていたこともあり、地区の高体連卓球専門部会長を引き受けていただき、各校の卓球部顧問の先生方との親睦の機会である飲み会にも参加していただきました。当時の福島高専卓球部顧問の先生が浅岡先生とほぼ同世代で、しかも同じ東大卒の英語の先生ということで、初対面のときには意気投合しておられました。全校集会の校長挨拶や地区卓球大会の部会長挨拶などでは、時事的な内容に触れ、示唆に富んだ見解を示されることが多くありました。「これからの時代は・・・」ということで、高校生諸君に伝えたかったことが多々あったように思われます。

それにしても、亡くなる前日にも廊下でお会いし、挨拶を交わした際も普段通りの浅岡先生とお見受けしましたし、お席のあった3階職員室でも特段変わったところはなかったとの話で、突然の訃報にショックはかなり大きなものがありました。10年以上前になるかと思いますが、浅岡先生は違和感があって受診したところ脳梗塞と診断され、それ以来、人一倍、健康には留意なさってきたということをお聞きしたことがあります。本紙第6号で、8月に亡くなった坪井厚子先生のお悔やみ記事を書かせていただいた際にも触れましたが、いろいろ注意していても、どうにもならないことがあるのかもしれない。

浅岡先生は県外のご出身で、お父様の仕事の関係で幼少期から引っ越しが多かったようです。校長在職時の全校集会で、「小学生の頃、伊勢湾台風（1959年）を経験した」との話をされていたことがありました。教員としては、山梨県の学校で勤務されていたこともあったようですが、先にも触れたように、縁あって開校準備当時から本校に携わって来られました。4年前に一旦退職された際に挨拶で、「いわきは気候も良く気に入っている。退職後もこの地で生活していきたい。街で会ったら、声をかけてください」と生徒たちに呼びかけていた姿が印象的です。学校としては英語の先生の確保が難しく、昨年度からお手伝いいただいていたわけですが、このような形でお別れすることになるとは夢にも思ってもみませんでした。どうか安らかに、天国から昌平中学高等学校が飛躍していく姿を見守っていただきたいと思います。合掌

文責：清水聖（進路指導主事）